

「帰国子女教育を考える会」 通信 第19号 (2010年10月)

内 容

巻頭言

第59回研究例会 案内

第58回研究例会 報告

事務局からのお知らせ ― 事務局新体制について

巻頭言

よろしくお願いいたします

帰国子女教育を考える会 会長

山下 良一(ヤマシタ リョウイチ)

小島勝前会長が次に譲ると仰り、「関西では海外子女教育振興財団の相談員だ」と言われて残る財団在職期間が短いにも関わらず、お人のおいででないならつなぎにと考えて無謀にも引き受けてしまいました。

大学生の時に学習現象に関心を持って以来一番の関心事は子どもの内的過程を想定し私なりに検証することで、ある事柄についての妥当な適切な概念をどう子どもに形成させ応用させるか、その過程を追いながら私の働きかけの方策の修正をより適切にはかることが楽しみでした。このような学習現象は生きていることの証しだと感じるし、自発的学習という現象もありますが、やはり働きかけによって生じる行動の変容・思考の枠組みの形成がメインですから、今もって私には面白いのです。

この分野は1965年(昭和40年)3月に創設半年後のニューデリー日本人学校に赴任して以来の関心事です。派遣制度も何もない時代に大学の選考で派遣が決まりデリーで初めて教職に就きました。学校を作り上げていくのが楽しくて、夜PTA会長の家に子どもを集めて天体観測を無心にやったりしていました。それが普通のことだと思いつつ帰国後大阪市立の学校に勤務し始めてしばらくしてから「学校ってお役所なんだ」と気付いたような経過をたどっています。教員歴は小学校畑ばかりです。

財団の教育相談員として勤務し始めて、制度の違いと留意点、内外の学校情報、…。日本人学校の勤務経験ではとうていカバーできない内容の体得に時間がかかり相談者に申し訳ないと思ってきました。そんな中で多方面の方々に育てていただいたのですが、この会の研究例会の席は代え難い貴重な勉強の場です。私はこの会で育ててもらったと感じています。事例発表や解釈の検討が多方面からの視点でなされるのでこの席に身を置いていると理解の適切な位置づけや方策の検討がなされる過程に身を置くことになり、いつも必ずこのような思いが湧き出てきます。会の後の飲む席では「考えるばかりで実行しない会」なんて発言も出てくるような気楽さもありそれも楽しみにしています。この発言についても、多様な事例を持ち寄って多様な背景のもとに多様な出席者が自由に発言できている、投げかける人がいて反応する人がいることが貴重で、所感を伝え合うことから生まれるものがあると私は思っています。そして、会での討論がきっかけでこの分野の発展の芽が伸びていくことになればそれは実行のきっかけを持てたのだから意味があると思っています。この分野の先達が立ち上げてくださって今の当事者が出席して思いを出し合う、この会はその機能を果たしていると思っています。会に出席いただくことが何より重要ではないでしょうか。

定見はもとより持ち合わせておりません。しかし、互いに尊重し合いながら意見交換できるこの場が貴重だと強く思っております。この貴重な会の存続と発展にどうか皆様方のご助力、ご支援を賜りますようお願いいたします。(海外子女教育振興財団 教育相談員)